

高校生と創る演劇

ミライハ ミライハ ミライハ

2021.11.6(土)7(日)

報告書



どこへかは知らんけど行く

作 松原俊太郎



高校生が出演する舞台に戯曲を書き下ろすのは初めてのこと、楽しく構想し、まずはタイトルを考えました。高校という限定された時空間で過ごす高校生たちにとっても、コロナ禍で見えづ不安になっている人々にとっても重要な「未来」と、二十世紀初頭のイタリヤで結成された未来派という芸術家集団の功罪を絡み合わせればおもしろいのではないかと、という狙いから「ミライハ」というタイトルに決定しました。

「未来を舞台に現前させる」という無理な命題を実現する形式も必要となりました。あーだこーだといじくりまわした結果、高校演劇では馴染みの会話劇ではどうしてもその無理が嘘になってしまうそうだったため、会話劇は採用せず、十人の登場人物がひとりずつ主要な語り手となり、数名の人物たちとともに身振りと言語を行いつつ語られている状況を再現する、という変則的なモノログ形式をとりました。ただ、これだけでは「未来」は「舞台」に「現前」しませんので、十人の語りが終わったのちに発話なしでこれまでになされた身振りのみを再現する、というト書きを加え、「ミライハ」が完成しました。

発せられた声は聞いたひとたちの記憶の中になく、そのたしかにかつて聞いた声を、またその声によってかつて惹き起こされた感情やエピソードを、俳優たちの身振りが発掘する、思い起こさせるのではないかと。かつて声と同時になされていた身振りさえそこがあれば、ひとは声と身体、これまで思い出しもしなかったもの、思い出すことすら可能でなかったもの、つまり未来を発生させることができるのではないかと。私が賭けたのはこのような直観でした。

これは終わりません。これからみなさんが目の当たりにしていくであろうさまざまな景色に、この舞台のために行われていた身振りを、会話を、感情を重ね合わせられるような、そんな時間がたしかにあった、と思います。これから高校生たちは高校生ではなく、別の何かに変身します、それだけで喜ばしいことです。高校生という存在が、高校という場所が、時代にそぐわなくなるような時代が来るかもしれない。今作はそうした個々の未来への言祝ぎを志向しています。反省点も困難だった点も多々ありますが、それは協働のうちでなんとかなるものでしょう。演劇に限らず困難の多い時代ではありますが、各々にやれることはたくさんありますし、私は腐らず拗ねず何かしら書いていければと思っています。この文章を読んでくれている方々と、読者や観客、共同制作者として等々、また何らかのかたちでいつしよに何かを作ることができれば、それ以上のことはありません。

リアクションは高校生の未来を見るか？——演出 スペースノットブランク

【小野彩加・中澤陽】



二〇二二年九月中旬、豊橋での滞在制作がはじまる直前まで、どれだけ充実して安定して過ごせるかを最優先に考えていた。もしも体調を崩してしまつたらという不安ばかりだったが、いざはじまるとその不安はどこかへ消えてしまつてい

た。気候にもめぐまれ、よく食べよく寝て、よく創つていたと思う。はじめの頃は一日二時間の制作時間をノンストップで創つていた。一時間やつては次、次と場面の目処が立つても立たなくて、とにかくメンバーを切り替え入れ替わり立ち替わり対話を混線させ、舞台上にその混線した対話が場面同士のつながりとして表れるだろうと想像していた。PLATに複数の創造活動室があつて本当によかつた。与えること以上で得ることの方がどうしたつて多いであろうといつも以上と感じていた。あらゆる問題に対して難しいと言つてしまつては簡単な逃げ道を作ることでもあるが、仕事に於いてそれを可能な限り染しめるものに仕立て上げるか、単に業務として遂行するかの線引きについて考えるのはとても難しい。与える、得る関係ではなく、共有する関係で過ごしたい。高校生と創る演劇は、高校生という全体ではなく、あくまでそこにやつてきた一人一人が一人一人同士で創る場、としての演劇

イから。だから「ミライハ」の制作過程では、出演者にもスタッフにも、対応されないようにする方法を徹底して考えた。プロと冠された大人たちが手厚いプランで導いてくれるだろうという思い込みを利用して、箸が転んでもおかしい年頃の高校生たちのあらゆる反応を舞台にしてみたい。ディスカッションを重ねて場面ごとに創つた綿密なプランを、然もその瞬間に思いついたかの如く（実際にその瞬間に思いついたことも含めて）伝える振る舞いこそが演出のすべてだった。思いつきを舞台にしているように見せかける。すると対話だけでは見えなかつた一人一人の素晴らしい本性が観念の規則から解放されて主体から舞台へと見え隠れしはじめる。緊張して身体がこわばる。ほぐす努力をするよりもこわばる身体の良いを見つければいい。どうせ本番も緊張するのだから。そのようにして、制作に於けるヒエラルキーの頂点に必ずあると盲信してしまつた。偉大な問いの答えは本人たちが思いつきを積み上げて辿り着くしかない。丁寧な共有し続けた。そして幾人かは、その先に答えがないかもしれないと気がついたと思う。

このテキストのためのディスカッションを行なう前、無事に公演を終えた高校生たちがその成果を伝えるために出演するラジオを聞いた。いまだに何をやっていったのかよくわかつていないとはつきり言っていた。だが、何をやっていったのかよくわかつていない

書いた戯曲を本人の目の前で読むのだから。しかもその戯曲はどうかやらかしにわかにくいと噂されている。読み終わったあとの劇作家の感想「一言目は驚きの反応を含んだ「速い」だった。速くて然るべき、目の前に用意された言葉を必死に追うしかない。言葉にするのを止めてはならないという一人一人の強い気概を見た。それだけで上演が成立すると思つてしまつたし、実際にそのひと月後には想像をはるかに超越する上演が成立してしまつた。ここからはじまるひとつひとつの出来事に大小問わず反応しようとする気概は、未来の対応を思考する「ミライハ」という舞台の上で高校生という全体から一人一人の主体を自ら引き摺り出し観客との共有を達成するためには、すでに充分だった。

演技という対応を思考する時、自分の（しかも自分かと思う）いいところを見せなければと思いついてしまつたことがある。なぜならテレビに映るあの俳優はカワイイし、あのアイドルはカッコイ

い。何かありませんでした。稽古を進めていく中で、様々なオーダーが出され、時には純粋な質問が投げかけられました。みんなの反応は概ね笑顔で、良好です。しかしどうして最初のうちには出てくる表現がぎこちなくて、どこか遠慮しているようでした。何かをしようと求めているながら、はみ出したくない、間違つた行動をとりたくないという思いが無意識に共存しているかのようでした。

一人一人が、あれほどの集中と、強度と、情動と、緊張と、努力と、才能と、消費者意識と、熱量と、優愛と、表現とを保つて「ミライハ」を創つていたことを観客は憶えている。その記憶こそが、一人一人の生きる価値そのものだ、一回一回の上演を見ながら考えていた。なぜ高校生なのだろう。高校生であれば、高校生だから勉学に励まなければという価値を与えられるからだろうか。なぜ私なのだろう。今も未来もそう考えるしかない問いに直面する。私にしか生じない反応に怯えていた一人一人が少しずつ自らその反応に価値を与え、それを未来の対応として得る。「ミライハ」を創つた一人一人は、なぜ私なのか、決してわかつていないままでも、私が私として存在する場を、今も未来も、きつと創り続けるだろう。と、無用な期待をしよう私たちの新しい反応も、なかなか厄介なものである。創り続けなければならぬのは、まず私たちであるにも拘わらず。

みんなが既に持っているものを

演出補

古賀友樹

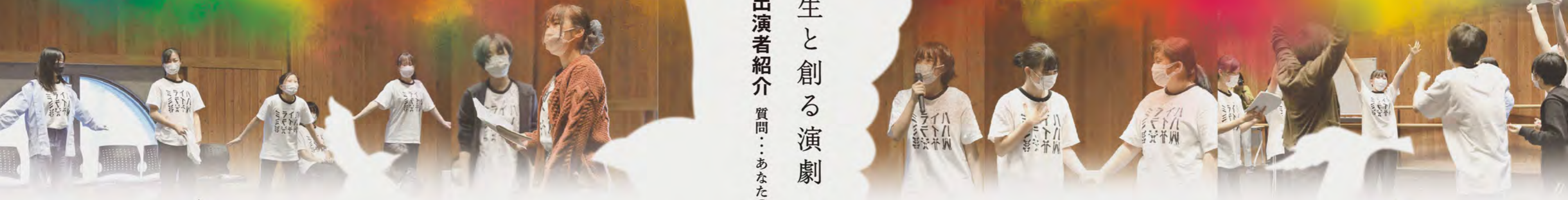


高校生たちは何を求めているのか。いきなり大きく出ましたが、豊橋にいた時はそのことをずっと考えていたような気がします。せつかく参加してくれたのであれば、作品を創っていく上でその望みを（少しくらいは）叶えてあげたいと思つていました。とは言つても、「君は一体何がしたいの？」と真正面から聞けるはずもなく、上手く意図を伝えられる自信もなくて。地道に、ただただ寄り添うという選択肢を取

るしかありませんでした。稽古を進めていく中で、様々なオーダーが出され、時には純粋な質問が投げかけられました。みんなの反応は概ね笑顔で、良好です。しかしどうして最初のうちには出てくる表現がぎこちなくて、どこか遠慮しているようでした。何かをしようと求めているながら、はみ出したくない、間違つた行動をとりたくないという思いが無意識に共存しているかのようでした。

まじいものでした。最終的には一人一人がしっかりと自分の表現を立ち上げていく状態まで持ってくれたと感じました。線引きの話をみんなにしたいと思つますが、覚えていてほしいか。あえてここでは説明しませんが、それぞれの意識による線引きが無数に行われていたあの舞台は、とてもスリリングで刺激的な、最高の舞台でした。みんなはどうかかわらないけれど、僕が求めていた舞台がそこにはありました。

まじいものでした。最終的には一人一人がしっかりと自分の表現を立ち上げていく状態まで持ってくれたと感じました。線引きの話をみんなにしたいと思つますが、覚えていてほしいか。あえてここでは説明しませんが、それぞれの意識による線引きが無数に行われていたあの舞台は、とてもスリリングで刺激的な、最高の舞台でした。みんなはどうかかわらないけれど、僕が求めていた舞台がそこにはありました。



高校生と創る演劇

出演者紹介 質問：あなたの未来は？

Inuzuka Haruna



Kawakita Ryoma



Endo Reika



Naruse Yui



Yokoi Waka



Inoue Fuka



Suzuki Rio



Furuta Hana



Sasaki Nana



Imamura Hanna



犬塚陽菜 ◆ 歩歩(フフ)

私は幼い頃からミュージカルが大好きでした。ここ「PLAT」で劇団四季の公演を初めて見てから劇団四季に興味を持ち様々な作品を観劇しました。昔から自分で何かを表現することが好きだった私は「この舞台に立ちたい」と思うようになりました。いつか劇団四季の俳優としてPLATに帰ってきます。

川喜田涼真 ◆ 老狗(イヌ)

1秒先、1分先、1時間先、1日先、1週間先、1ヶ月先、1年先、10年先、小さな選択の積み重ねの先に見えてきたなにか、見えてくるなにか、見えてこないなにか、掴めないなにか、掴めそうになにか、わかないなにか、避けられないなにか、来て欲しくなかったなにか、いつか来るなにか。

遠藤伶佳 ◆ 片手(カタテ)

ミライハ、何気ない幸せな時を撮るカメラマンになりたい！笑顔な人を撮るのも好きだし、撮った写真で笑顔になつてくれる事も好きだから、この先、人を笑顔にしたい。眼レフの似合うカッコいい大人になりたい。後は、ベットのフレットのスイちゃんどうぞ一緒にいて、愛でてください！

成瀬結 ◆ 五月(サツキ)

私は誰かに影響を与えられる声優になりたいです。小さな頃からアニメを見ていて、そのアニメキャラたちから発せられる言葉に様々な影響を与えられました。アニメというフィルタを通して人に言葉を与え、影響を与え、私がそうであったように物事の考え方や視点を交えるキッカケを作ることができるといいなと思います。

横井和華 ◆ 光子(ヒカ)

私は将来、美容系の職に就くことを目標としています。高校3年生になるまでは、自分が本当にやりたいと思えることを見つけれず、進路に迷うばかりでした。しかし、やりたいことが見つかった今、周りの人に支えられながらも、自分が好きだと思えることを仕事にできるように精励していきたいです。

井上楓花 ◆ 文子(フミコ)

たくさんの人と出会いたい。たくさんの人と出会って色々な考え方を身につけて視野を広げたい。あわよくば色んな演出家さんと出会ってたくさん演劇を舞台で上演していきたい。それとコロナが収まって一段落したら一緒に作品を創ってまたメンバーとご飯を食べに行つてたくさんお話したい!!!

鈴木莉央 ◆ 傘傘(サン)

私が思う未来は正直まだわからないです。将来は舞台のヘアメイクさんになつてもいいかな、なつていないかな、かもしれない。でもまずは春から始まる学生生活を楽しみ、必ず舞台のヘアメイクさんになれるようにしたいです。このミライハを通して自分の未来への成長へと繋げられるように頑張ります！

古田英 ◆ 未知子(ミチコ)

私はタケコプターで空を飛びたいです。普通に陸上にいたらできないような体の感覚を味わってみたいです。ドラえもんタケコプターのように1つで飛ぶには命が足りないかもしれないから、妥協して上半身下半身を2つ以上つけても、妥協して妥協してジェットスーツみたいなのもいいからとにかく空を飛びたいです。

佐々木虹 ◆ 挿曲(エビ)

私は、大人になって友達と家でお酒を飲んだり話したりするのが些細な夢です。高校は今年で卒業、来年からは私も友達もそれぞれの道を歩み、なかなか会えなくなると思います。でも、卒業してからもたまにはお互い予定を空け、会つたり話したりして今の関係がずっと続いていたらいいなと思っています。

今村絆那 ◆ 通心粉(マカロニ)

明日とか明後日みたいな近い未来は楽しみで夜が長いなつて思う日もあります。楽しみで今が過ぎて欲しいという日もありますが、でも高校卒業後の未来は真つ暗です。時間が止まらなくて欲しいと思う日もあるくらい、未来についてまだ思考が切り開けてないので、自分の中の未来は悩みの種ではないです。



募集告知開始

オーディション申込締切

第1次オーディション
第2次オーディション

応募者数はキャスト20名、スタッフ1名の計21名。

第一次オーディションは印象に残った自分の夢を参加者と共に再現し、スペースノットプランクの作品の作り方や考え方を体験。第二次オーディションでは松原俊太郎×スペースノットプランクの過去作の一部を読み上演するワークショップ形式のオーディションを実施。このオーディションを経て、キャスト10名、スタッフ1名の参加が決定した。

高校生スタッフ追加募集開始
追加募集締切

5名がスタッフとして新たに加わり、キャスト10名、スタッフ6名の計16名でこれから作品創っていく。

夏のプレワークショップ

初めて参加者全員が集まり、ワークショップを通して交流を深める時間となった。ワークショップと並行して戯曲を執筆する松原さんによる個別インタビューも高校生全員に行った。

身体ワークショップ

俳優でありヨガ講師の吉田聡子さんによる身体ワークショップをオンラインで実施。舞台上で怪我をしない身体の使い方や声の出方のレクチャーを受けた。



自主稽古開始

新型コロナウイルス感染対策のため、グループ通話を利用し動画を共有しながら、各自の家でヨガ、筋力トレーニング、ストレッチを行った。特殊形状の舞台に立つため、身体づくりには一層力を入れ取り組んだ。

テクニカルスタッフ舞台美術ミーティング

舞台美術が固まってきたところで、テクニカルスタッフと劇場スタッフによるオンラインミーティングを実施。舞台美術家のカミイケさんから美術の説明を受けた後、照明や音響についての確認やアイデア出しを行った。

チラシ・ポスター完成

チケット発売開始

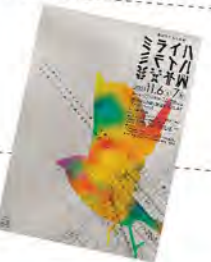


稽古



◆13時・入場者82名 / 18時・入場者127名
◆13時・入場者120名 / 17時・入場者92名
●総入場者数421名

本番映像上映会



2月21日[日]	募集告知開始
4月23日[金]	オーディション申込締切
5月22日[土] 23日[日]	第1次オーディション
30日[日]	第2次オーディション
6月21日[月]	高校生スタッフ追加募集開始
7月31日[土]	追加募集締切
8月17日[火]	夏のプレワークショップ
~20日[金]	
8月30日[月]	身体ワークショップ
9月1日[水]	自主稽古開始
9月10日[金]	テクニカルスタッフ舞台美術ミーティング
9月23日[木]	チラシ・ポスター完成
26日[日]	チケット発売開始
9月27日[月]~10月3日[日]	1週目
10月5日[火]~10日[日]	2週目
12日[火]~17日[日]	3週目
19日[火]~24日[日]	4週目
26日[火]~31日[日]	5週目
11月2日[火]~5日[金]	6週目
11月6日[土]	
7日[日]	
2022年	
2月10日[木]	本番映像上映会

【稽古】 第1週目

●9月27日(月) - 10月3日(日)

愛知県緊急事態措置の発令に伴い、19時45分までの限られた時間の中で稽古が始まる。稽古初日に松原さんから第一稿が届き、できた戯曲を手に読み合わせを行った。最初は文字を追うのに必死だったが、歩きながらセリフを発することにより、身体まで徐々に広がりを持つていった。10月1日には緊急事態措置が解除され、感染症対策を講じながら平日は18時~21時、休日は12時~18時の時間で稽古を重ねていく。稽古前半は読み合わせをし自分のセリフ以外だけでなく作品全体を認識できるところまで読みこんでいく。後半は1場ずつ立ち稽古をして少しずつシーンを創っていった。演出のスペースノットプランクが各シーンの立ち稽古を進める一方で別の部屋では演出補の古賀友樹さんを中心に立ち稽古以外のシーンの戯曲の読み込みを進める。知らない単語を解消していくなど、戯曲を読み合わせながら理解を深めていった。



【稽古】 第2週目

●10月5日(火) - 10月10日(日)

大まかなシーンができてきたところで、場ごとに通しはじめる。スペースノットプランクと高校生が対話をしながら細かい演出が付けられ

【稽古】 第4週目

●10月19日(火) - 10月24日(日)

創造活動室Aでの稽古の最終週。この稽古場における完成形を目指し、細部まで手が入っていく。観客に向けて上演する意識を持って、毎日の稽古に真剣に取り組んだ。稽古の傍ら、高校生スタッフはラジオへ出演し、宣伝を行った。衣装の縫い付け作業も佳境に差し掛かり、スタッフの作業は多岐に渡った。20日には舞台美術のカミイケさんが合流し、美術の製作が始まる。高校生スタッフに舞台模型の作り方も教えてもらい、キャストが舞台の全体像を把握できるよう模型作りに励んだ。舞台監督の木村さん、音響の櫻内さん、照明の中山さんも順に劇場入りし、稽古と並行して会場となるアートスペースに舞台が仕込まれていった。



【稽古】 第3週目

●10月12日(火) - 10月17日(日)

演出家からの指示を待つのではなく、高校生自身が一つのセリフや動きを意識し定着させることを課題とした。引き続き、場ごとにアップテートを重ねていく。16日にはすべての立ち稽古が終了し、通し稽古に入った。全体像が見えたことで、台詞が身体になじまず焦りをみせる出演者があらわれるなど新たな課題がみえてきた。学校によってはテスト週間入り、稽古場の隅でテスト勉強をしながら稽古に参加した。衣装が決まったところで、高校生スタッフはこここつと飾りの縫い付けや直し作業を日々行っていた。

【稽古】 第5週目

●10月26日(火) - 10月31日(日)

26日から舞台上での稽古が始まる。傾斜と起伏のある特殊な舞台に身体を慣らすため、例年よりも早い劇場入りとなった。31日に家族や友人など関係者を招いて公開通し稽古を行うため、数シーンごとに通しながら作品の全体像を構築していく。公開通し稽古では、初めて観客の前で上演したことにより、



【稽古】 第6週目

●11月2日(火) - 11月5日(金)

前週に全体像が見えたところで、大幅な変更が入ってくる。キャストも高校生スタッフも、集中力を切らさないように稽古に取り組んだ。最終週に入り、照明や音響の調整も並行して行われた。5日にはゲネプロを実施。本番まで調整する課題を確認した。より良い作品を目指し、直前まで演出の修正が入り、本番に臨んだ。





高校生と創る演劇
ハイパー
ミラクル
文芸

指曲

文子

歩

老猫

光子

光子

光子

高校生スタッフ紹介

「高校生と創る演劇」の舞台を支えた
高校生スタッフたち。

それぞれの得意なことを活かしながら
沢山の仕事をこなしました。

今回は特殊な舞台のため
スタッフも出演者とともに

舞台を行き来しながら作品を支えました。
プロのスタッフの仕事に間近に感じ、

積極的にアイデアを出しながら
自発的に作品の一部を

創り上げていきました。

質問：あなたの未来は？

山本千裕

◆稽古記録・舞台美術助手・広報



「私の未来」はざっくり言ったら
スーパーマンになりたいです！
やりたいことを全力でやる人に出会ってから、私にとつてのスーパーマンはこうい
う人のことなんだなと思ういま
した！なので私はそんな人間
になりたいです！そして、連鎖
でたくさんの方が鼓舞されて
スーパーマンで溢れる世界が私の
未来です！

白井里音

◆照明助手



私が思い描く未来は家族全員
が笑顔で暮らしている未来で
す。未来も家族みんなで旅行に
行ったり、ご飯を食べに行ったり、
自由に暮らせたなら嬉しい幸せ
だなと思います。何年も何十年
も仲良く楽しく家族で過ごし
ていきたいと思っています。1
番の自分の居場所を大切に
して明るいミライに歩き出して
行きます。

塚本乃樹

◆舞台美術助手・舞台監督助手



僕の想像する未来は、色んな乗
り物がある楽しい未来です！僕
は色々な乗り物やアトラクショ
ンが好きなので、例えば今はこ
こからここまで感じてバス
や電車などが通っているけど、未
来では例えば東京から神奈川ま
でを繋ぐジェットコースターだ
ったり、周辺のお店まで飛んでい
ける空飛ぶバスとかそういうの
が沢山溢れる未来がいいです！

片山史博

◆音楽 音響助手 稽古記録



未来。そんなもの考える機会も
なかった。でも考え出したとき
が、未来の始まりだ。時にはイ
ライラだつてするし、時には苦
い経験もある。胃が痛くなる事
だつてある。でもその先にある
光輝く時代を胸に抱いたらそ
の痛みすら乗り越えられる。曖昧
な期待だけど、東大か南大か分
からないこの未開の地を、この
手で開いてこの目で見たい。

松木千夏

◆衣裳助手・広報



超少子高齢化社会かかって思
います。今の時点ですごいです
からね。年金問題とか私達が大人
になるときには一体どうなつ
ているのか不安でもあり、興味
深くもあります。あとは、ドラ
えもんですかね！未来って聞
いたらやっぱりドラえもん。会
いたいですよね。生きてるうち
にはきつとドラえもんに会える
かなって思ってます。

彦坂奈生

◆広報・照明助手・衣裳助手



未来への選択はいつだって自分
にあると考えています。小さい
「今日ご飯何食べようかな」か
ら大きい「進路どうしよう」な
ど私たちは常に選択し続けて
います。いまこの時の選択が作
品をより良くする選択である
ために「生懸命頑張ります!!」



稽古記録

日々の稽古の進捗やポイントなどを
わかりやすくまとめ、出演者に共有した。

この記録は稽古を休んでいたキャストに
稽古の様子を伝えるだけではなく、
稽古後のキャストの振り返りにも活用された。

広報

SNSでの投稿や、

劇場内のカフェテリアに広告のレイアウトをするなど、
様々な広報・宣伝活動を行った。

キャストへのインタビュや
本番までのカウントダウンなども行った。

舞台監督助手

舞台監督の木村篤さんの指導のもと
手分けして稽古・本番後の舞台の
掃除や消毒をした。

本番中には舞台袖でキャストのフロアをするほか、
空気砲の操作、床布の昇降などを担当した。

舞台美術助手

舞台美術のカミイケタカさんに
レクチャーを受け、舞台模型を作成した。
劇場入りしての舞台の仕込みにも

高校生スタッフが参加し、
舞台美術が作られていく過程を体験した。

衣裳

衣裳の長峰麻貴さんと一緒に
衣裳の特徴となる蛍光ピンクのライン付けや
文字のアイロンプリントを行った。
忍耐が必要な地道な作業をこなし、
作業終盤には驚くほど
作業スピードがアップした。

照明

照明の中山奈美さんサポートのもと、
照明についてのレクチャーを受け
はじめて照明のプランに挑戦し、
本番中のオペレーション(照明操作)も担った。
キャストを追うピンスポットを
担当したスタッフも。

音楽・音響助手

劇中のラップシーンのトラックを作ったほか、
音響の櫻内慎海さんと劇中に使用する音楽を制作。
公演中には舞台奥に位置する
音響ブースでキーボードを演奏した。

ホワイエ装飾

来場したお客様を迎えるため、
様々な工夫を凝らしたホワイエ装飾を作成した。
キャストであり将来写真家を目指す
遠藤伶佳さんの稽古風景を収めた写真展や、
舞台模型の展示、
戯曲に登場するモチーフを基に
モバイルなど趣向を凝らしホワイエを装飾した。

Staff work

スタッフワーク

1 5月のオーディション ワークショップについて

●初めての場所でも緊張しましたが、リラックスできるような雰囲気になっていたため気持ちの良い時間を過ごすことができました。

●形式的なオーディションではなく、舞台を創っていくことを意識したオーディションだったのでとてもリラックスして受けることが出来ました。

●初めての場所や人がいる中で、とても緊張していましたが演出のスペースノットプランクのお二人が優しく接してくれて安心してました。また、他校の演劇部の話や色々な話を聞くことができて、とても充実した時間でした！

集計結果 1

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	9	1	0	0	0
	スタッフ	2	0	1	0	0
キャスト	内容	9	0	1	0	0
	スタッフ	2	0	1	0	0

※スタッフ=無記入3名



良い方へたくさん導いてくださったのでとても自分に自信ができました。

●稽古の序盤はコロナで閉館が早かったので平日の稽古時間が短く、不完全燃焼という感じがありました。

●心身的にきつい時もありましたが、出演者やスタッフで相談したり、スベノの方から頂いたアドバイスのおかげで、頑張って稽古に参加することができました！また、稽古を通して演技の上達、新たな知識を得ることができました。

●スタッフがとても大事な役割だということを感じました。それぞれの仕事を自分で考え行動できたのが良かったです。

集計結果 4

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	9	1	0	0	0
	スタッフ	1	5	0	0	0
キャスト	長さ・回数	9	1	0	0	0
	スタッフ	3	1	2	0	0
キャスト	内容	9	1	0	0	0
	スタッフ	5	1	0	0	0

2 プレワーク ショップについて

●いきなり稽古が始まるのではなくキャスト、スタッフが混ざってワークショップがあったので参加者のみんなと少しずつ話をしたり打ち解けることができ良かったです。これからの稽古の進め方や方向性がよくわかる良い機会でした。

●スペースノットプランクと松原さんの過去の戯曲を知れたこと、観られたことが良かったです。それ以外には松原さんからインタビューを受けたことが印象的でした。身体ワークショップでは、呼吸法を知れたこと、



集計結果 2

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	10	0	0	0	0
	スタッフ	5	1	0	0	0
キャスト	内容	10	0	0	0	0
	スタッフ	4	1	1	0	0

※スタッフ=無記入3名

5 本番について

●本番前はとても緊張していましたが、キャストやスタッフで励ましあったり、演出のお2人にも励ましていただいてとても勇気が出て、本番でも全力で演じることができました。また、公演ごとにフィードバックをしていただけのため、最後まで向上心を持って演じることができました。

●お客さんに自分の演技が見てもらえるのが嬉しくて、本番も稽古と変わらずリラックスして自然な世界観を観ることが出来ていたと思います。照明や音響、美術の何から何までプロのクオリティーの中で演技できた思い出は一生の宝物です！

●自分の特技をそれぞれ生かしつつ、新しい分野にたくさん挑戦させてもらえてすごく良い経験になりました。

●高校では習わないことを沢山教えて頂きとても勉強になりました。これまで大会に参加した経験が少なく、自分に自信が持てなかつたのですが、この企画に参加してたくさんこのことを学び自分に自信が持てるようになりました。

集計結果 5

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	9	1	0	0	0
	スタッフ	6	0	0	0	0

6 公演を終えて①

●公演を終えた現在の率直な感想をお聞かせください。

●部活の公演の多くが中止になったなか、客席に観客が入っているのを久しぶりに見て、感動しました。

●役重視ではなく、自分を表現することが出来ていた稽古場や舞台だったので本当に居心地が良かったです。ミライハの舞台を通して私は成長できたと自信を持って言えます。本当にとっても良い経験になりましたし、幸せな時間だったなと思っています。

●公演が終わった今もあの空間が恋しく、ミライハ口スガものすごくあります。またこのメンバーで劇を作りたいと思っただし、部活の後輩にも勧めたので来年もたくさん高校生の演劇というのを知って楽しんでもらいたいです。

3 9月の自主練習について

●筋トレできついこともありましたがリモートでもみんなで練習できたことが楽しかったし、それぞれが自主的に練習できたことが素晴らしいかっと思えます。筋トレの後にお題を出して話すのもチームワークが高まって楽しかったです。稽古の前にみんなのことを知れるいい機会でした。

●トレーニングのやり方から、クールダウンの仕方まで丁寧に教えていただき、有意義な時間を過ごせました。実際にPLATに行き、みんなとトレーニングをする事が出来ず残念でしたが、グループ通話を通して参加者のみんなとコミュニケーションを取ることができて良かったです。



集計結果 3

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	6	4	0	0	0
	スタッフ	2	3	1	0	0
キャスト	長さ・回数	8	1	1	0	0
	スタッフ	2	3	1	0	0
キャスト	内容	6	3	1	0	0
	スタッフ	2	3	1	0	0

●オンラインでの実施でしたが特に不便を感じることもなく、遠方からの参加だったので逆に参加しやすくて良かったです。

●回線の不調によってみんなの流れから置いていかれるトラブルがあり不便に感じました。ストレッチのときは顔が見えない分、人見知りしなくて話せたのが良かったです。

●家でやるスペースの確保に少し苦労しました。

4 稽古について

●学校帰りだったため少し大変でしたが、徐々にみんなとの親交も深まり、無理なく練習に参加する事が出来ました。

●全員の特性やペースに合わせた稽古だったので少ない期間の中でゆとりを持って稽古することができました。最後まで楽しく稽古をすることができました。私自身の思う演技を否定せず

●来年からは演劇とは違う道に進みますが、このまま演劇を終わらせてしまわず機会があればまたやりたいと思います。

●初めは知らない人と仲良く出来るか、照明を学ぶ上で知識が足りないけど大丈夫か、など不安な気持ちでしたが、稽古を重ねていくうちに不安な気持ちは無くなり、今では参加して本当に良かったと思います。色々な人達に出会い、価値観を共有していく事で素晴らしい劇を作ることが出来たと思います。

●高校生スタッフの人手不足を感じました。色々なプロの方々と話せて、相談などにものってもらえてこれまでにない素敵な経験ができたと思う。



6

公演を終えて②

この企画に参加することで
当初あなたはどんなことを望み、
何をしたいと思われましたか？
また、それらは実現されましたか？

●はじめは部活動が終わってからも演劇を
続けたかったから参加したという理由が大き
く、何か大きな目標や目的があったわけ
ではありませんでした。しかし、今回参加さ
せていただいたことで演劇に対する視野を
広げることができ、自分の中で芽生えつつ

あった固定概念をなくすことができました。
●この企画を通して演劇について興味を持っ
ている子と関わりたい、プロとして仕事を
されている方からたくさん学びたいと思
い参加しました。どちらも実現でき、この企
画で終わるのではなく参加者のみんなとの
交流も続いていて本当に参加して良かったで
す。

●自分の知らない世界を見ることで知識を
増やすこと、新たなことにチャレンジするこ
とができたらいなと思っていました。しっ
かり実現しました！知識だけでなく、新た
な仲間に出会い、新たな思い出を作ること
ができました。

●今回はスタッフとして参加しましたが、
キャストをやってみたいと思いました！来年
はキャストオーディションに参加してみたい
です！
●プロの作品を間近に見られるのを見て、
自分の世界を広げたいと思
いました。自分が想像してい
た以上に受けた影響は大きく、
とても良い経験ができたと思
います。

●私はプロの方の照明を学び
たくて参加しました。沢山の
ことを教えて頂いたのでも
も満足しています。

6 集計結果

		とても満足	満足	どちらとも いえない	不満	とても 不満
キャスト	満足度	10	0	0	0	0
	スタッフ	6	0	0	0	0

		参加したい	知人に 勧めたい	参加 できない	参加しない 勧めない
キャスト	来 年	2	6	2	0
	ス タッフ	4	2	0	0

		継続した方が 良い	どちらとも いえない	継続しない方が 良い
キャスト	継 続	10	0	0
	ス タッフ	6	0	0

※スタッフ=無記入1名

7

今後、プラットフォームに対する
期待・要望等
ありましたら
ご自由に
お書きください。

●自分が成人しても、子どもが産まれて子ど
もが高校生になってもPLATFORMとこの企画が
続いていければいいと思います。またスベ
ースノットバンクを呼んでほしいです。
●高校生と創る演劇だけでなく、他にもプロ
の講師を呼んで何日間にわたる練習期間と、
本番みたいなものやって欲しいです。
●ミライハのメンバーでもう一度「ミライハ」
をやりたいです！



新聞記事
Newspaper article

朝日新聞/2021年11月3日掲載

高校生、プロ演劇人と創る「未来」



「未来」は、高校生とプロ演劇人が共同で創作した演劇。自然体で語る理不尽な暴力・別れ…自然体で語る

東日新聞/2021年11月5日掲載



プラットフォームで「高校生と創る演劇」第8回目
「ミライハ」あすから上演
多彩な角度から見た「現実」と身体で表現

プラットフォームで「高校生と創る演劇」第8回目「ミライハ」あすから上演。多彩な角度から見た「現実」と身体で表現

東愛知新聞/2021年11月5日掲載

高校生とプロが作る
演劇「ミライハ」上演

高校生とプロが作る演劇「ミライハ」上演。6、7日

中日新聞/2021年11月5日掲載

高校生 つくらぬ演技で創る劇



豊橋・プラットフォームであすから上演

豊橋・プラットフォームであすから上演。高校生とプロが協力 背伸びせず稽古



通し稽古に取り組み高校生キャスト (提供)

※掲載の記事・写真は各新聞社の許諾を得て掲載しています。

- スタッフ
- 作——松原俊太郎
- 演出——スペースノットバンク
(小野彩加・中澤陽)
- 演出補——古賀友樹
- 舞台美術——カミイケタクヤ
- 舞台監督——木村篤
- 照明——中山奈美
- 音響——櫻内憧海
- 衣裳——長峰麻貴
- 宣伝美術——共田慎性
- 中川裕樹
- ※(株)エクスラージ
- 宣伝写真——萩原ヤスオ
- 舞台写真——伊藤華織
- 記録映像——田中博之
- 制作——矢作勝義
- 長坂奈保美
- 伴朱音
- 制作助手——佐和ぐりこ(オレンヂスタ)
- 協力——石田晶子
- ブリッシマ
- ルベル依子
- 吉田聡子
- オレンヂスタ
- エフエム豊橋
- 「ティーズ」
- 帯瀬運送株式会社
- 主催——公財「豊橋文化振興財団
- 共催——豊橋市
- 助成——一般財団法人地域創造

